【和田 萃 氏 特別寄稿】大海人皇子は吉野入りに、どの道を通ったのか―「芋ヶ峠から宮滝へ」

たぎつみやどころ 準備第１号　編集：吉野歴史資料館（〒 639-3443 奈良県吉野郡吉野町宮滝 348）　発行：吉野町教育委員会事務局（〒 639-3111 奈良県吉野郡吉野町上市 133）発行日：平成 27 年 10 月 1 日　／　本誌や吉野歴史資料館のお問い合わせは、吉野町教育委員会事務局（tel : 0746-32-0190 、fax : 0746-32-5689 、mail : syakai_e@town.yoshino.lg.jp）まで。吉野歴史資料館は３～ 11 月の土・日・祝に開館。水・木・金も開館しておりますが、ご利用は事前予約が必要です。

『たぎつみやどころ』刊行によせて

吉野町長　北岡　篤

昭和五～一三年に末永雅雄先生によって宮滝遺跡の本格的な発掘調査が行われてから、七七年が経とうとしています。この間に、縄文時代・弥生時代・飛鳥時代・奈良時代などの各時代で貴重な発掘成果が得られ、吉野の歴史のみならず、日本の歴史の一頁を書き換えるような成果も得られました。

昭和三二年には、宮滝遺跡が国の史跡に指定され、平成二三年には、宮滝遺跡第一次発掘調査で得られた約一六〇〇点の縄文土器と石器が奈良県の有形文化財に指定されました。

吉野町としても、平成二七年度より本格的に史跡宮滝遺跡の整備事業に着手してまいります。この整備事業の拠点となるのが吉野歴史資料館で、『たぎつみやどころ』は館報としての役割と、史跡宮滝遺跡の整備事業の広報誌としての役割を担っています。

本誌を通して、新しい情報を皆様の許へ届けて参りたいと考えています。

最後になりましたが、今回特別寄稿をいただきました和田萃先生に御礼を申し上げます。

たぎつみやどころ とは

吉野町宮滝にあった、吉野宮。そこには、歴代の天皇をはじめ、たくさんの貴族たち（大宮人）が訪れました。彼らは、吉野宮をたたえ、その周辺の情景を詩に綴り、万葉集に納めました。

その詩たちの中に、吉野宮をこう詠んだものがあります。

～水激つ 瀧（たき）の都は　見れど飽かぬかも

大宮人が見ても飽きないと讃えた吉野宮。吉野宮の比定地、宮滝遺跡の展示を担う吉野歴史資料館としては、その魅力を皆様に存分にお伝えしていきたいと考えています。そんな思いから、吉野歴史資料館だよりのタイトルを、「たぎつみやどころ」としました。

資料館の〝今〟、吉野の歴史や文化財に関する最新の話題などを皆様にお届けする、そんな冊子にしていきたいと思います。応援、よろしくお願いいたします。

平成 27 年度　吉野歴史資料館関連イベントのおしらせ

※各イベントは、開始２時間前に何らかの気象警報が吉野町にだされていた場合、中止します。

平成二十七年度公開講演会

「天平の大ピンチ・もうこうなったら、吉野へ行こう」
講師：馬場　基さん（奈良文化財研究所）
日にち：平成二七年一〇月二四日（土）
時間：一四時～一五時三〇分
場所：吉野町中央公民館　定員：八〇名
参加費：五〇〇円　要申し込み

上野誠の吉野万葉塾

①平成二七年一一月二九日（日）
「笑ひの古代学」

②平成二八年　三月一二日（土）
「作寶楼で新羅の客を遇する宴の詩」
講師：上野　誠氏　（奈良大学国文学部）
時間：一四時～一五時三〇分（各回とも）
場所：吉野町中央公民館　定員：四〇名
参加費：各回五〇〇円　要申し込み

吉野を学ぶ歴史講座 part 2　古代の宮滝とその周辺

①平成二七年　九月二〇日（日）
「聖武天皇と智識寺」
講師：山根　航氏　（柏原市立歴史資料館）

②平成二七年一〇月　三日（土）
「奈良時代の宮滝遺跡」
講師：卜部　行弘氏（橿原考古学研究所）

③平成二七年一一月　一日（日）
「飛鳥寺西方遺跡と壬申の乱」
講師：長谷川　透氏（明日香村文化財課）
時間：一四時～一五時三〇分（各回とも）
場所：吉野町中央公民館　定員：四〇名
参加費：各回三〇〇円　要申し込み

ヒストリートーク

●平成二七年　九月一八日（金）
「弘願寺阿弥陀如来立像の来歴」

●平成二七年一〇月一七日（土）
「岸熊吉氏の足跡をさぐる」

●平成二七年一一月二〇日（金）
「謡曲『吉野琴』と『国栖』」

●平成二八年　三月一九日（土）
「史跡宮滝遺跡試掘調査速報」
時間：開催日が金曜は一九時三〇分～
　　開催日が土曜は一三時三〇分～
場所：吉野歴史資料館
参加費：各回三〇〇円　申し込み不要

特別陳列「宮滝１次調査、前夜。」
会期：平成二七年九月一九日（土）～一二月二九日（日）
場所：吉野歴史資料館
入館料：大人二〇〇円　高校生以下半額
備考：平日のご入館には、事前申し込み要
　　会期中、一部展示替えがあります。

※お申込みが必要な講座への参加には…
ＦＡＸ、往復はがき、mail（PC 用のみ）のいずれかで、吉野町教育委員会事務局までお名前・ご住所・電話番号・参加を希望される講座をお知らせください。

モミのつぶやき（編集後記）

本誌をお読みの皆様、どうもはじめまして。吉野歴史資料館に住むモミ（吉野の古い方言でカエル）です。これから「たぎつみやどころ」を通じて、今お伝えしたい、採れたての吉野情報をお届けしていきます。

今回の話題は…、宮滝遺跡、整備はじまる。

宮滝遺跡のうち、奈良時代の離宮跡が確認された場所を、公園化整備することになりました。今年度は試掘調査を行います。宮滝がどうなっていくのか、続報をお楽しみに！

【特別寄稿】

芋ケ峠から宮滝へ

京都教育大学名誉教授　和田　萃

◇

昭和四十二年四月、京都大学大学院一回生の春先、近鉄吉野線の橘寺駅（現在の飛鳥駅）で下車し、一人、明日香村の野口、平田の集落を抜け、眼下を流れる飛鳥川と対岸の稲淵集落を目にしていると、何かしら心が伸びやかとなり、言い知れぬ感動を覚えた。当時、何か心に屈するものがあったらしい。飛鳥川の悠久の流れを目にし、心が次第に晴れやかになったことを、今も鮮明に覚えている。

四月下旬には、当時、大和歴史館においられた伊達宗泰先生と岡幸二郎さんのお誘いで友史会に参加し、初めて芋ケ峠（標高五五六メートル）を越え、西方の世尊寺（比蘇寺）へ向かう道すがら、梨の白い花が咲き乱れていたことを、今も鮮明に覚えている。

壬申の乱の前夜、天智十年（六七一）十月十七日、大海人皇子（後の天武天皇）、鸕野讃良皇女（後の持統天皇）、皇子女、従者らは、近江宮を脱出して飛鳥の嶋宮に一泊、十九日に宮滝の吉野宮に入った。

飛鳥から宮滝へ至るルートは、まだ十分に解明できていない。

現在の芋ケ峠は、明治三十八年に敷設された新しい道である。旧道は、新道の少し東方を縫う道で、道幅も狭い。しかし木陰の下、U字型の柔い道が芋ケ峠の頂上近くまで続いており、歩いていると、まことに爽やか。

芋ケ峠頂上の道の東側に巨岩があって、旧道の頂上となっており、巨岩を下れば、明治三十八年に敷設された峠の頂上に降りる。

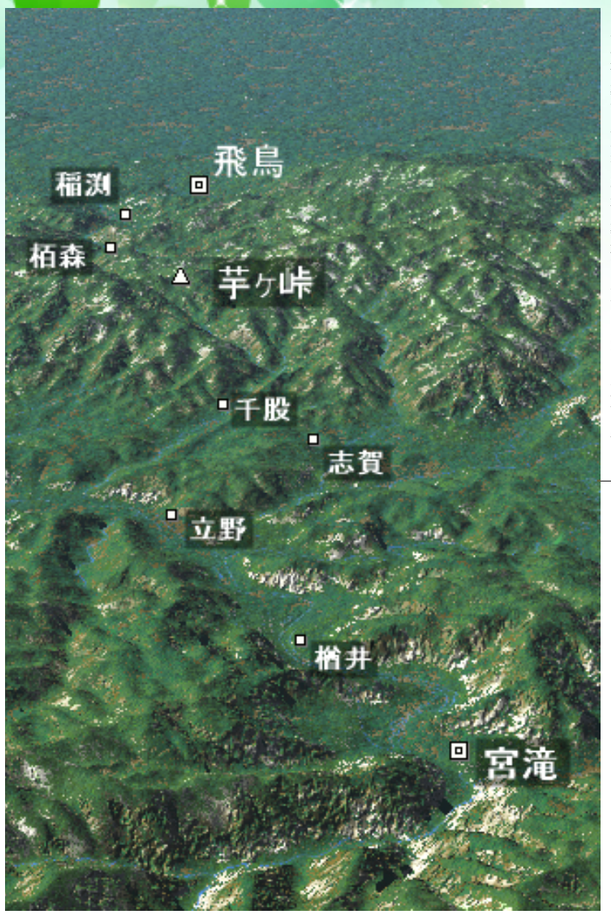
飛鳥の嶋宮から宮滝の吉野宮へ至るルートは、まだ十分に解明できていない。以下、一案を示す。

明日香村稲淵から、飛鳥川沿いの道を遡り、栢森、入谷をへて芋ケ峠（標高五五六メートル）へ。芋ケ峠から、吉野郡吉野町の千股、志賀、立野へ下り、妹山樹叢のある所から、吉野川の右岸沿いの道（伊勢街道）を遡ると、楢井を経て宮滝に至る。

正確に記録したものではないが、これまで十回前後、明日香村の稲淵から芋ケ峠を越え、吉野川に面した妹山樹叢へ下り、吉野川右岸沿いの伊勢街道を遡って、宮滝に至っている。宮滝に至る所要時間は、私の足でおおよそ5時間ほど。春秋の好季節に歩くことが多い。

天武元年（六七二）六月二十四日の早朝、吉野宮にいた大海人皇子は、側近である大分君恵尺、黄書造大伴、逢臣志摩の三人を、近江朝廷側が守衛する飛鳥の留守司、高坂王のもとに遣して、驛鈴を乞わせたが、許されなかった。それで恵尺は近江に往き、志摩は吉野宮に戻って、大海人皇子に「鈴を得ず」と復奏した。また黄書造大伴は、大伴馬来田と共に吉野宮を出発した大海人皇子らを追った。壬申の乱の勃発である。

【著者紹介】　和田　萃
京都教育大学名誉教授。専門は日本古代史。代表作に『日本古代の儀礼と祭祀・信仰』（全三巻）など多数。



飛鳥から宮滝のルート案（カシミールにて作成）

◆ヒミのひとこと（編者コメント）◆

古代史最大の戦争〝壬申の乱〟が始まる前、大海人皇子は大津から吉野へ、どうやって来たのか。目的地、吉野宮はどんな所だったのか。興味は尽きませんネ。

吉野歴史資料館では、そんな吉野宮の展示をしていますヨ。吉野で私たちと一緒に、壬申の乱を考えてみませんか？

平成二十七年度春季実施 吉野歴史資料館主催イベント報告

①古代の音色～吉野からの発信～

【講演】古代の文化交流-琴とうたと
講師　奈良大学教授　上野　誠氏

【千三百年コンサート】
カヤグム・ヘグム演奏者（韓国中央大学校）
司会　上野　誠氏　ゲスト　松坂　慶子氏

②吉野を学ぶ歴史講座 part 1
「吉野山口神社の演能の変遷」
講師　吉野歴史資料館　池田　淳
「龍門の城-吉野の中世を探る」
講師　森と水の源流館　成瀬　匡章氏
「龍門騒動の実像」
講師　天理大学教授　谷山　正道氏

③ヒストリートーク（5月～8月）
「吉野の宮座」
「吉野山安禅寺、その実態を探る」
「なぜ宮滝遺跡の発掘調査がはじまったのか」
「義経記の成立と伝承の保存」

④特別陳列
「奥千本にねむる　にぎわいのカケラたち」
（同時開催　職場体験実習展）
会期　五月三日（日）～八月三〇日（日）
内容　昨年度、吉野山で確認した遺物を展示